



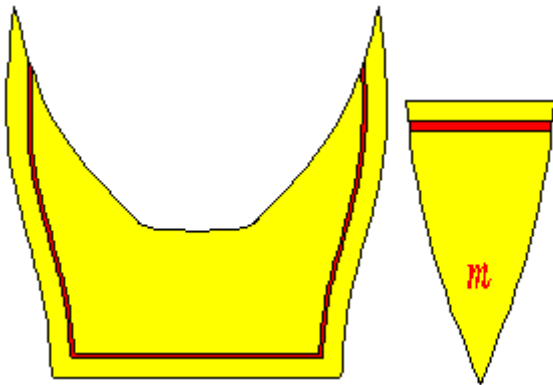
## 前あきセーラー服の作り方

■表 ■裏

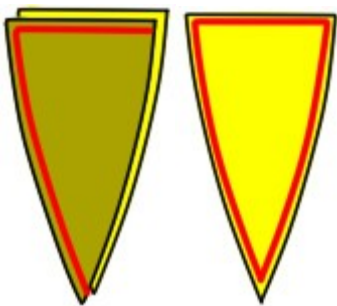
■接着芯

裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする。えりの裏に接着を付ける。

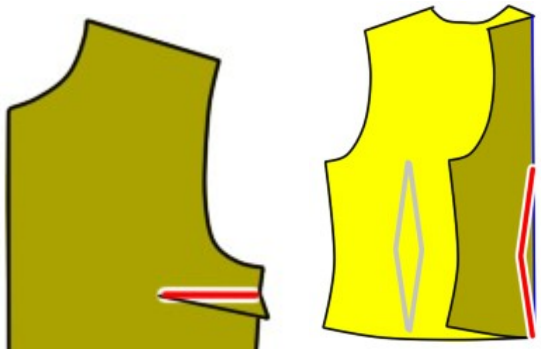
くわしくは縫う前の下準備を参照模様とかをつけたい場合はこの時点で入れてください。



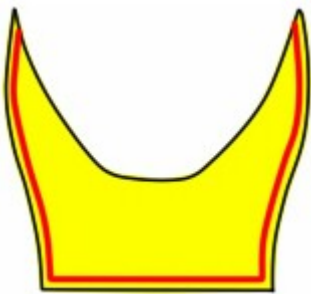


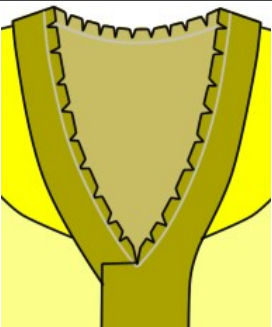




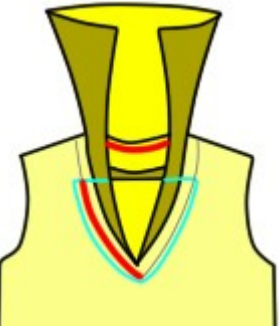

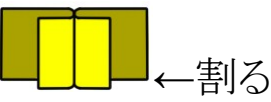
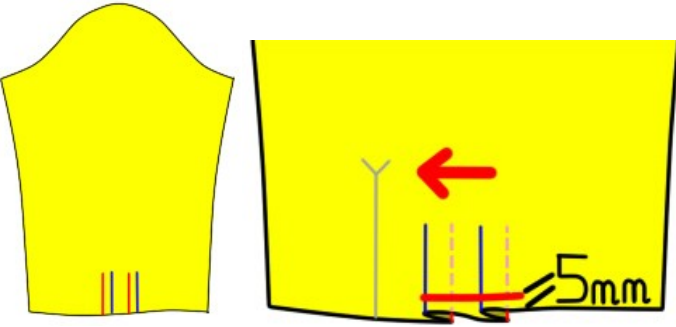
胸元の三角の部分とそでくちにラインや柄などを入れる。  
アイロン両面接着テープを使うとゆがみにくい。  
(あくまで仮止めとして使い、ミシンで縫いとめてください)



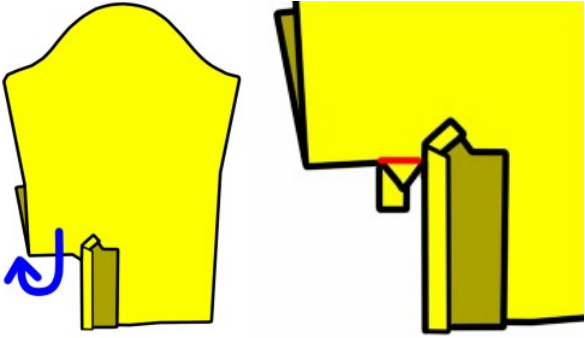
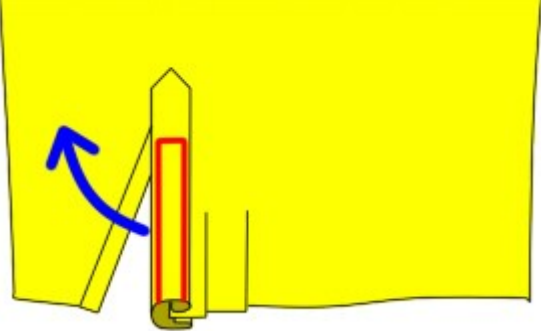
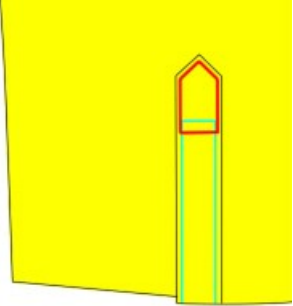
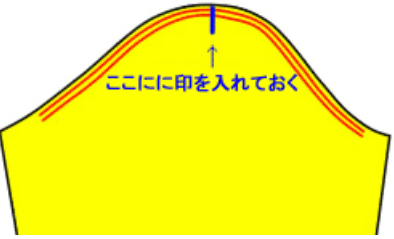
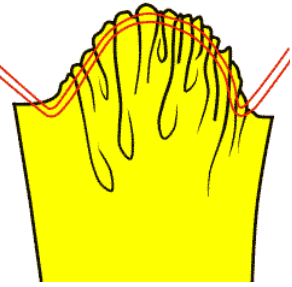
2枚を表同士が内側になるように重ねる。  
スナップボタンをつけないほうは縫わない。  
表替えして端から5mmの所を縫う。

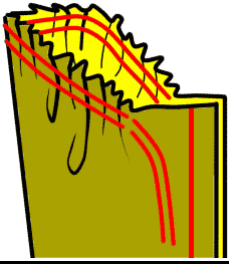
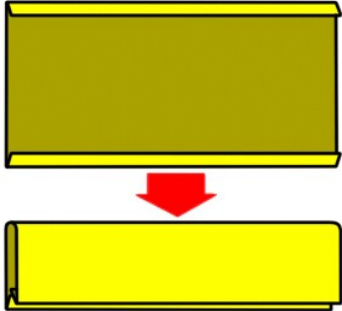
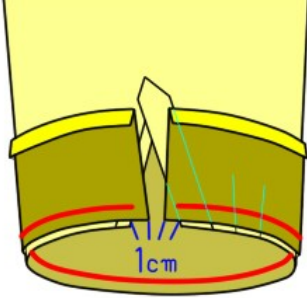
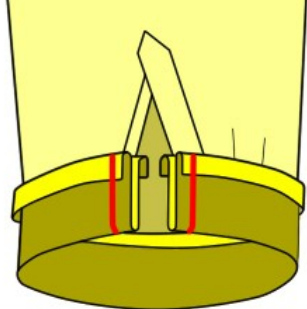
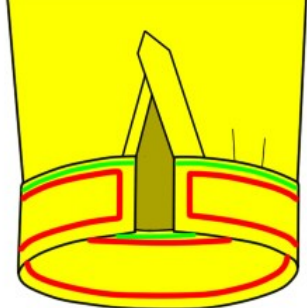
	<p><u>ダーツ</u>(立体にする為のつまみ)を縫う。      後身頃のダーツは後中心に      前のダーツは上に倒す</p>  倒す
	<p>身頃を表同士が内側になるように重ねる。</p> <p>肩を縫う。      縫い代は左右に<u>割る</u></p>  ← 割る
	<p>セーラーカラー表同士が内側になるように重ねて縫う。</p>
	<p>このとき図のように「<u>表に見えるほうのえり</u>」を2~3 mm内側にずらしてまち針をさし、しわが入らないように、注意してにしてぬう。</p>
	<p>上記のように表を少し中に入れ込む理由は      えりは実際に人間が服を着たとき、首周りのカーブと肩のカーブにそっています。</p>

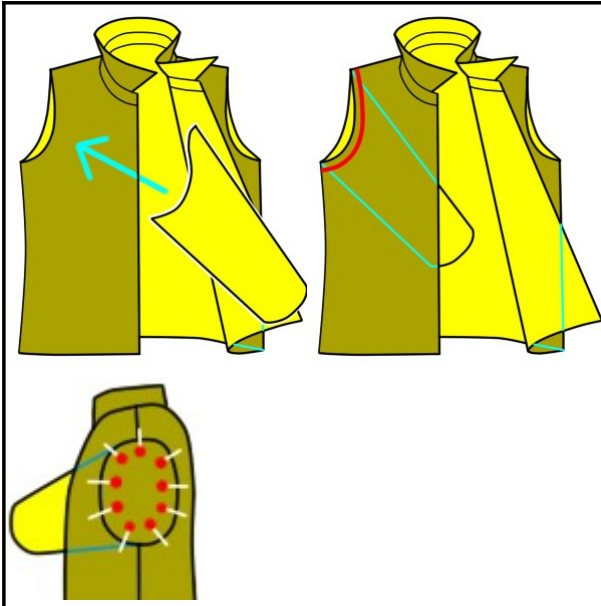
 <p>これをしないと一番下のえりのようにに引きつってえりの先がぴよこっとあがってしまうので注意が必要です。</p>	 <p>外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなるなのでその分を補うために2~3mm表になるほう(外側に折り返すほう)を内側に入れ込んで、長さを調節する。</p>
	<p>表に返して、端から5mmくらいの所を縫う。 あまり布のギリギリを縫いすぎると、ミシンの針穴にえりの先が食い込むので注意！！</p>
	<p>表にした身頃にえりを表にして重ね、えりくびを仮止めする。 仮止めなので端から5mmくらいの所を縫う。</p>
	<p><u>見返し</u>の前後の肩部分を表同士が内側になるように重ねる。 肩を縫う。 身頃の上に見返しの裏が上になるように重ねて、縫う。</p>
	<p>えりの縫い代に縫い目を切らないように切込みを入れる。</p>

	<p>見返しを裏に返す。</p>
	<p>セラーカラーを避けて見返しを固定するために端から5mmの所を縫う</p>
	<p>えりを避けたまま前あきの三角の布を下に重ね、縫い付ける。 (三角の布は先に裏表縫い合わせてあると仮定してます)</p>
	<p>脇を縫う。 縫い代は左右に割る。</p> 
<p>前中心にスナップボタンをつける</p>	
<p>そでを縫う</p>	
	<p>そで口のタック(つまみ)を縫う。 あきの方へダックを倒す。 青が山折り。 赤が谷折り。 タックが取れないように5mmの所を縫う。</p>

	<p>そでの持ち出しをアイロンで折り目をつける</p> <p>小さいほうの持ち出しは両端を折る</p>
	<p>そでのあき(着替えやすくするためのスリット)に持ち出しを付ける。 タック側に大きいほう 反対側に小さいほうの持ち出しを縫いつける</p>
	<p>縫い代をよけて、図のように切り込みを入れる。 持ち出しを切らないように注意</p>
	<p>小さいほうの持ち出しで切り込みを入れた所を包む。 このように折ると端まで縫える。</p>

	<p>小さい持ち出しの方を上折る。 切り込みの三角に飛び出た部分と 小さい持ち出しを縫う。</p>
	<p>大きいほうの持ち出しで切り込み を入れた所を包む。 小さい持ち出しをよけて図のように 縫う。</p>
	<p>持ち出しを自然に重なるように整 え、上の部分を縫う。</p>
	<p>そで山にはそでを立体にする為に 余裕が入っている場合があります。</p> <p>その場合ギャザーを寄せなければ、 長さが合いません。</p> <p>※ギャザーを寄せなくてもよいそ でもあります。</p> <p>ギャザーの寄せ方は縫う前の下準 備参照</p>
	<p>縫い代の中を2本縫う。 1本より2本縫ったほうがギャザー が均等に寄せやすい。</p> <p>裏の糸(下糸)だけを引き、ギャ ザーを寄せる。</p>

	<p>糸調整を元に戻し中表にし、袖底(赤い部分)を縫う。</p>
	<p>カフスの縫い代をアイロンで折る。</p>
	<p>表同士が内側になるように、そで口とカフスを重ねる。 持ち出しから1cm ずつ縫い代がはみ出すように縫う。</p>
	<p>アイロンで折った真ん中の折り目と逆向きに折る。 両端1cmを縫う</p>
	<p>カフスを表にかえす。 端から2mm(黄緑の線)の所を手縫いでしつけする(仮止め)。 5mmの所(赤い線)を縫う。 ボタンホールをあけてボタンを付ける。もしくはスナップボタンを付ける。</p>



身頃を裏に、そでを表にして身頃の中に入れる。  
 ギャザーの量を調節しながら、肩と脇を待ち針で止める。  
 均等に針を刺す。  
 なれていない人は**しっかりしつけ**  
**(手縫いで出来上がり線より2~3**  
**mmはなれたところを大まかに**  
**縫って固定すること)をする。**  
 まち針を外してからミシンで縫う。

### ★必要なもの

生地 接着芯 スナップボタン

### ★このデザインにおすすめの素材

綿・ポリエステル製のツイル

綿は色数もおおく一般的な生地やさんでも手に入りやすいです。  
 ただししわになりやすい

ポリエステルはしわになりにくく、軽い。

ただし布スプレーや、染料、布用ペンなど柄を入れるときに、使える画材を選ぶ。

なので無地のときはポリエステル系がおすすめ。

市販の布用ペンや、布スプレーを使う場合は綿を使うときれいに柄が入ります。

ちなみにぺんてるの布用絵の具を水を使わず、ステンシル(柄の枠を作り、筆をたたきつけて柄を入れる方法)で柄を入れるとポリエステルでもキレイに柄を入れられます。

#### ・接着芯

使用する表生地にあったものを使用してください。

薄地に厚地用の芯を貼ると接着剤が染み出してシミになったり、厚地に薄地を貼るとはがれやすくなったりします。

### ★関連説明書

縫う前の下準備